

発行:NFRJ-08パネル実行委員会



# ニュースレター No.4

発行日 2011年6月

## 1 東日本大震災のお見舞い

多くの地域で梅雨の季節に入っていますが、いかがお過ごしでしょうか。

本年1月から2月にかけて、第3回のフォローアップ調査を実施いたしました。3月11日東日本大震災が発生したのは、その後でした。

本調査にご協力いただいている皆様のなかにも直接・間接的に被害にあわれた方

がいらっしゃるかと存じます。心よりお見舞い申し上げます。

本研究プロジェクトも、福島第一原発事故の影響で多少の計画の遅延がありましたが、現在は予定通り進行しております。

一日も早く被災地の復興が叶うよう、実行委員会一同祈念しております。

## 2 ご回答ありがとうございました

皆様のご協力により、無事調査を終えることができました。今回の調査では、1,559名の方々(前回調査に協力いただいた方の96%)からご回答を得ることができました。お礼を申し上げます。

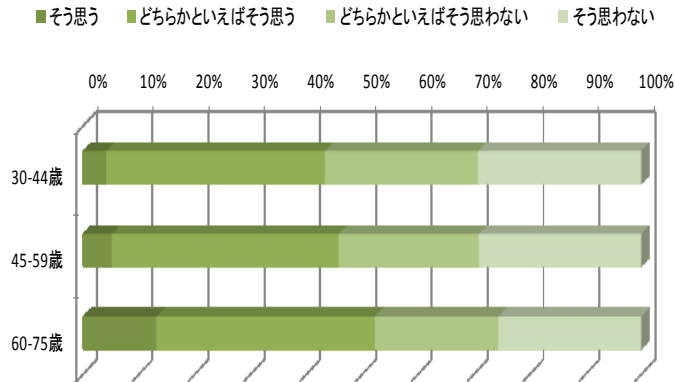
引き続き、皆様からいただいた情報は調査委託会社が厳重に管理し、他所にもれることはありませんので、ご安心ください。

いただいたアンケートについては現在鋭意集計作業を行っている段階ですが、今回は速報値の一部をご紹介します。アンケートの冒頭でお聞きした家族や子育てについての質問について、一部の集計結果を次のページよりご紹介します。



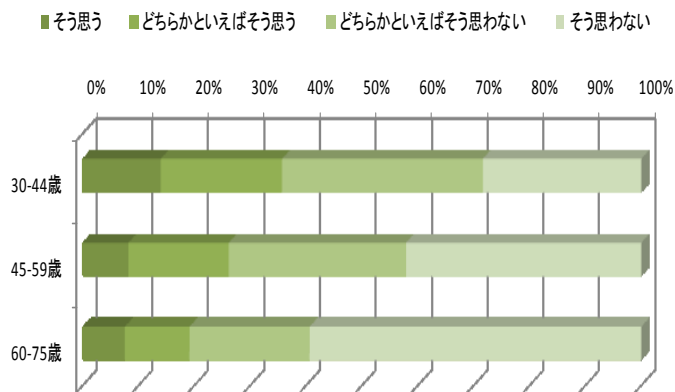
### 3 調査結果のご紹介(速報値)

#### 男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである



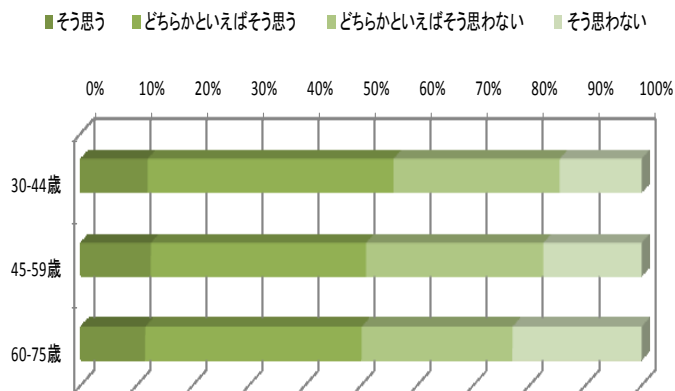
60歳以上の方で「そう思う」と回答されている割合が多いことを除けば、年齢層ごとの違いはあまり大きくないようです。

#### 夫婦は、お互いの同意があれば、入籍しなくてもかまわない



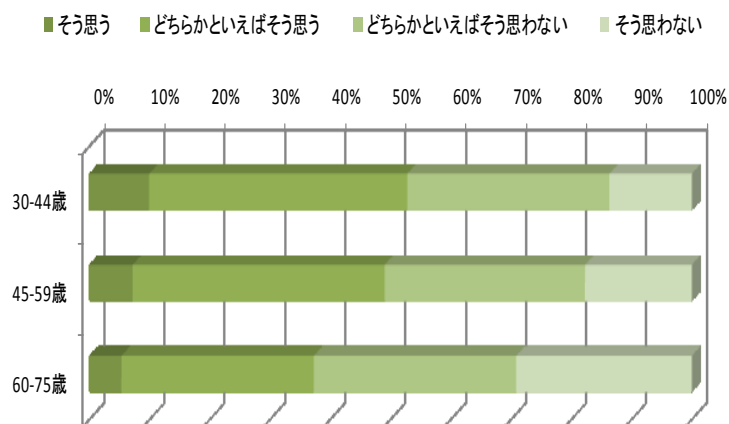
こちらは年齢層ごとの意見の違いが目立つようです。60歳以上の方の6割が「そう思わない」と回答しています。

#### 親が年をとって、自分たちだけでは暮らしていけなくなったら、子どもは親と同居すべきだ



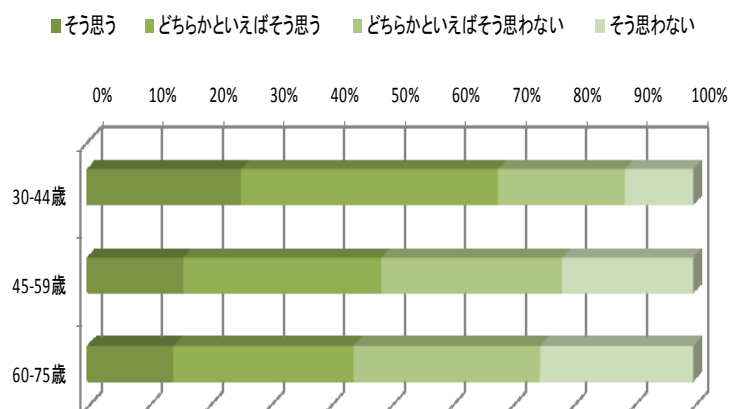
年齢層ごとの差は大きくありません。むしろ60歳以上の方で「そう思わない」と回答している割合が、若い世代よりも多いようです。

## 子育て中の父親は仕事時間を減らすべきだ



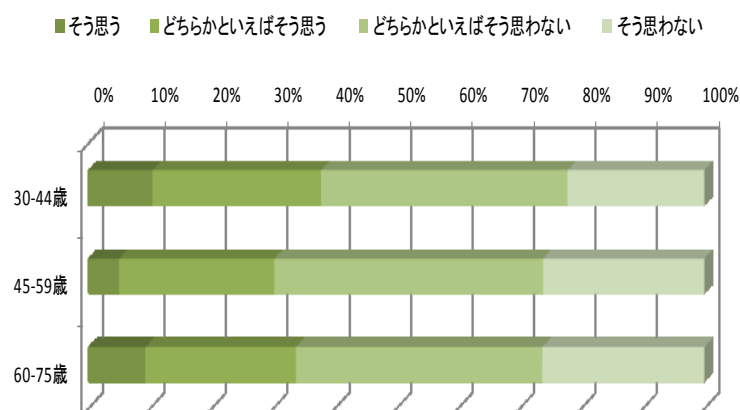
全体的に若年層で父親の育児参加に対して肯定的な意見が多いようです。

## 子育て家庭への手当を増やすことは、よい税金の使い方だ



こちらも、子育て家庭の割合が高い若年層で肯定的な回答が多いと言えます。

## 2、3年前に比べれば、いまの日本は子育てがしやすい



世代による意見の大きな違いはありませんが、全体的に「そう思わない」と回答している割合が多く、「どちらかといえばそう思わない」を合わせると6割以上が否定的な回答をよせています。

## 4 全国家族調査(NFRJ)プロジェクトについて



皆様にご協力いただいている本アンケート調査は、1998年に開始された「全国家族調査(NFRJ)」という大きなプロジェクトの一貫として行われています。「全国家族調査」は日本家族社会学会が実施している、日本でも有数の大規模な総合家族調査です。数回にわたる大規模なアンケート調査の結果は、数々の分析に利用され、現代日本の家族の実態と変化を明らかにしています。

「全国家族調査」のウェブサイトでは、過去のアンケート調査の概要、調査データを利用した報告のリストなどが閲覧できるようになっています。成果の中には外国の研究者によるものも多数含まれており、皆様の協力によって得られたデータが、世界で活用され、政策提言の基盤になっていることが確認できます。



「全国家族調査」のウェブサイト：

<http://www.wdc-jp.com/jsfs/committee/contents/index.htm>

★ 転居なさった時は、お手数ですが、下記までお知らせください。

社団法人 中央調査社

〒104-0061

東京都中央区銀座6-16-12

0120-48-5351(フリーダイヤル)

<http://www.crs.or.jp>

実行委員会メンバー：

西野理子(東洋大学)〈委員長〉

永井暁子(日本女子大学)〈事務局長〉

田中慶子(家計経済研究所)

田中重人(東北大学)

筒井淳也(立命館大学)

水落正明(三重大学)

三輪 哲(東北大学)

保田時男(大阪商業大学)



本調査でお送りする郵便物にはこのロゴがついています